

事業活動実績報告書

施 設 名	あすなろ幼稚園
教 育 理 念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む

1 事業名	あすなろ木育
2 実施期間	令和 7年4月1日 ～ 令和8年3月31日

3 取組概要	（取組日） 令和7年5月26日 ～ 令和7年6月27日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・木育外部講師を招き、ノコギリやカナヅチ等を使って保護者と一緒に木の作品を作る。土曜開催の自由参加（檜のスプーン作り）、年長（寄木細工作り）、年中（ぶんぶんゴマ作り）、年少（丸太ぼっくり）、満3歳（バードコール作り丸太切り体験） 
	（取組日） 令和8年1月9日 ～ 令和8年3月13日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・3学期始業式に園長からのお年玉として全員に一人一つずつ、学年毎に成長に合わせた木製コマを用意し、それぞれマーカーで彩色してオリジナルのコマを作り、遊び、コマ回しの技術を上げながら、日本の伝統遊びを体感する 
	（取組日） 令和7年5月9日 ～ 令和7年11月21日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・ツリーハウスの最上階でのランチ会に園長が数名ずつ全員招待し、理事長と園長と特別な給食を食べる 
	（取組日） 令和7年10月6日 ～ 令和7年12月19日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 園長の「どんぐりコレクション」にない種類のどんぐりを園長に提出した子は園長から「どんぐり大使」として認定される 

効果検証報告書（継続事業用）

施設名	あすなろ幼稚園				
教育理念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む				

事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
	健康 ○	人間関係 ○	環境 ◎	言葉 ○	表現 ○
1 事業名	あすなろ木育				
2 事業概要	・木育外部講師を招き、ノコギリやカナヅチ等を使って保護者と一緒に木の作品を作る。土曜開催の自由参加(檜のスプーン作り)、年長(寄木細工コースター)、年中(ぶんぶんゴマ)、年少(丸太ぼっくり)、満3歳(丸太切り体験とバードコール作り) ・ドングリ大使:園長のドングリコレクションにない品種のドングリを提出した子をドングリ大使に認定する(結局、提出した子は全員認定される) ・3学期始業式に園長からのお年玉として全員に一人一つずつ、学年毎に成長に合わせた木製コマを用意し、それぞれマーカーで彩色してオリジナルのコマを作り、遊び、コマ回しの技術を上げながら、日本の伝統遊びを体感する ・ツリーハウスの最上階でのランチ会に園長が数名ずつ全員招待し、理事長と園長と特別な給食を食べる				
3 対象学級(クラス名) 対象人数	全学年、全クラス(クラス名:)			228 名	
計画時	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ・木育集団「東京チェンソーズ」より講師を招く。 土曜開催は事前申込制(1回10組×2回のため講師は2人)、保育参加行事として学年ごとに開催する活動は全員参加のため講師3人×4回 ノコギリやカナヅチ等の工具は全て借りる。 材料・工具の園までの配送費は準備費とする。 ・3学期始業式までに各学年の成長に見合う木製コマを人数分用意する。 コマ回しの技術に長けた職員が積極的に子どもたちにコツを伝え、面白さを伝えていく。 ・ツリーハウスランチ会の為、園庭の樹木剪定 ・ツリーハウスランチ会の招待状を園長一人ずつ手作りし、手渡しする。 ツリーハウス最上階まで、招待された子のリュック等の荷物や給食を専用の滑車で引き上げる時にコツが必要で出来る職員に限られている。(汁物もご飯も温かいまま運ぶため、ご飯は専用ジャーを使うなど工夫している) 狭い最上階スペースで行儀よく食べるため、レジャーシートにアウトドア用の1人利用ミニ机も全員分運んで設置している。 夏は暑いので扇風機も運び、冬は寒いのでミニこたつも運び上げて使用している。 ・10月になると「ドングリ大使」を募集し、応募されたドングリが園長のコレクションにまだないものであるか、ドングリ図鑑を使って鑑定し、新種と認定された場合は応募者を「ドングリ大使」に認定して認定証を贈呈する。			
	事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 保護者の方と一緒に木育体験を開催することで人的配置が必要。特に今年度は初めての木育集団だったため、人的にもモノ的にも念入りな準備が必要だった。全学年の木育体験を実施することで人的配置が必要。 ツリーハウスランチ会は熱中症対策が必須。 独楽回しは年々、もともとから出来る子が減っている所以で人的配置が必要になった。「ドングリ大使」制度はInstagramにて投稿したため、更に広くご家族を巻き込んでいき、遠くの親戚からドングリが届くようになったので、なるべく長期に渡って応募を受けるようにした。		
計画時	5 事業のねらい	木のぬくもりに触れ、自分の手で木片から普段使うものを工具を使って作ったり使ったり、 木製の日本伝統文化であるコマを自分のものとして使いこなすことや ツリーハウスの最上階で特別なランチ会を経験することで 自分が地球に生かされ、命が巡り巡って自分がここにいることを体感する			
	事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 当園は農林水産省の木育認定園として「木育推進パンフレット」にも掲載されているため、木育には大きく力を入れている。きれいなものだけでは育てられない、生きている木独特の汚さや不便さを体感することで育つ「生きる力」を多方面で実践していく。今年度よりInstagramにて「どんぐり大使」を広く募集したことで活動がさらに広がった		

計画時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・6月14日「槍スプーンを作ろう」(8組)、5月26日年少「丸太ぼっくり」作り(65親子分)、5月29日年長 寄木細工コースター作り(70名)、6月3日年中「ぶんぶんゴマ」作り(64名)、6月26日満3歳クラス「バードコール作りと丸太切り体験」(16組) ※全て保護者が来園し、園内で保護者と一緒に講師の指導を受けながら作業を楽しむ。※木育キットは実費で保護者負担のため申請せず、講師料・準備費・工具料のみ ・3学期始業式にて年長紐付きコマ・年中三角コマ・年少逆立ちコマ・満3歳かんとんに回るスターコマをお年玉として園長から渡し、マーカーで自分で彩色し、世界で一つだけのコマを作り、3学期いっぱいかけて長期的に自分で回せるように日々鍛錬していくなかでコマに親しみ、回せるようになる喜びや、回すと彩色によって模様に変化する様子を楽しむ。 ・普段は飲食禁止のツリーハウスにおいて、園長から招待状を受け取った子だけが体験できる、当日は特別な持ち物を用意する(レジャーシートなど)、どんなに楽しみにしていても天候に左右される、目の前で荷物が給食が滑車で引き上げられていく、等の特別感を増幅させながら、虫や鳥の声を聞きながら木の上でのランチ会を楽しむことで自分たちが木に包まれているような、地球に抱かれているような浮遊感を味わう。(実施期間は主に春と秋の晴れている日) ・「ドングリ大使」は10月に全園児・全ご家庭に応募を呼びかけ、応募されたものはなるべく早く「ドングリ図鑑」で鑑定し、認定証を渡す
		上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点
		幼稚園教育要領「健康」(2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。←木育活動で作ったもので遊ぶ 幼稚園教育要領「健康」(3) 進んで戸外で遊ぶ。←製作活動やドングリ大使使用のドングリ・落ち葉・木の枝などを園庭や園外保育等で拾ったり、それらを使ってあそんだりする 幼稚園教育要領「健康」(4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。←遊びや生活を木育という角度で切り取って楽しむことで園生活や家庭での生活がより豊かになる
		(継続事業のみ記入) 前年度の取組から発展させた点 ・年長は箸作りだったが、作業がヤスリをかける単純作業なので、組み合わせを楽しめる寄木細工コースターに挑戦することにした。 ・昨年度の満三クラス「卵鈴」年少「卵カー」に材料の不良品が多く、作りにくさや楽しみにくさがあったため、今年度は満三「バードコール&丸太切」、年少「丸太ぼっくり」に変更した。 ・昨年度年中「スプーン」も作業がヤスリをかける単純作業なので、今年度は描画も楽しめ、作って遊べる「ブンブンコマ」に変更した・独楽回しは木と親しむ第一歩となったと感じた。 ・ツリーハウスランチ会は木登り体験とともに、木に丸ごと抱かれている感覚を味わえる、生涯の思い出になると感じた ・「ドングリ大使」制度はホームページやインスタグラムにて広く呼びかけたことで祖父母も巻き込み「休日に家族でどングり拾いをした」との報告を受けたり、北海道や沖縄、青森のドングリが届いたり活動が広がっている。
事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等
		・今年度はこれまでお世話になっていた木育業者に実施日直前になって実施不可の連絡を受けたため、急に別業者を探し、その過程でなんとか無理を言って引き受けて頂いた「東京チェンソーズ」さんにお世話になった、という経緯があった。そのことで、木育活動で各学年が作る内容も一新せざるを得ず、そのための準備もゼロから全職員で練り直すという緊急事態のなか不安いっぱいでも迎えた親子木育活動行事となった。 しかし、結果的には過去最高のクオリティの高い木育活動になったと実感できた。丸太ぼっくりでは自分で作ったぼっくりで歩くという稀有な体験を設けることが出来たり、丸太切り体験では自分より背の高いノコギリを扱うという危険も伴う体験を保護者と出来たことで親子ともに自信にも繋がったようだ。保護者の方からも多くのご好評を頂き、子どもにとって、そして各家庭にとつての木育の貴重さを実感できた。 ・保護者と一緒に体験した木育体験会では、保護者の方から多くのご好評を頂くとともに、各御家庭でのノコギリやヤスリ等体験の少なさを実感した。今後も登園が担う木育の責任は大きいと感じた ・丸太ぼっくりを室内で歩き回られると床が傷つくなどの課題もあり、活動の勢いを止めずに楽しむ方法を次年度からさらに検討し改善していきたいと思う。

計画時	7 環境構成例	・木工作ではノコギリやカナヅチ、釘、ヤスリ等、普段使わない工具も用いるため、予め床にブルーシートを敷き詰めたり周囲にもものを置かないようにしたり、保護者が連れてくる未就園児を預かったり、事前に子どもたちに話をしたりして万難を排す。 ・コマを貰ったら日常的に主体的に取り組めるよう、活動と活動の隙間時間をあえて設けるようにする。場所も保育室内ではなく、廊下で活動することで他クラスの子たち同士で刺激しあえるように配慮する。 ・ツリーハウスランチ会とそれに付随する木登り体験のため、4月のうちに園庭樹木剪定を終わらせておく ・友達のツリーハウスランチ会を2階テラスや木の下から声をかけ、招待されていない子・招待されている子双方のやり取りを楽しんで、期待を膨らませる。 ・ドングリ図鑑とドングリコレクション用のケースを用意する
	事業後 7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 園庭の樹木剪定をツリーハウスランチ会が始まる前に終わらせておけるよう配慮した。 園児が独楽回しのむずかしさを楽しめるよう、回し方の提案や回せた子への声かけ等工夫だけでなく、コマ・スタジアムなど、集団でコマを楽しむ仕組みなど遊びの提案が必要。
計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・日常使う椅子や道具を自分で作ること以身の回りのものを大切に扱うようになる。 ・卒園後、コマを回せることがステイタスとなり、小学校や学童でコマを介して最初の友達が出来た、話しかけられた、尊敬された等、自信に繋がる。 ・ツリーハウスランチ会を体験するとそのメンバーの絆が深まる。木の上や虫が怖くなくなる。 ・木を愛し、自然を愛し、自然から学び、自然と共に生きる喜びが育まれる
	事業後 8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・日常使うスプーンや道具を自分で作ること以身の回りのものを大切に扱うようになった。家族での会話に講師から教わった知恵(温暖化を防ぐために木製品を長く使う - 必要性や森の寿命の話、工具の扱い方)が話題となり、家庭で再度考えたり味わうことで意識が格段に高まったという話を多く聞いた。 ・卒園後、コマを回せることがステイタスとなり、小学校や学童でコマを介して最初の友達が出来た、話しかけられた、尊敬された等、自信に繋がった。 ・コマ回しを家でも鍛錬することで祖父母等にコツを教わるなど関係が広がった ・ツリーハウスランチ会を体験するとそのメンバーの絆が深まった。 ・ドングリ大使は家族や親戚を巻き込み、木育の可能性を広げた活動となった
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 木育認定園として、園児が木を愛し、自然を愛し、自然から学び、自然と共に生きる喜びが育まれることは、地球全体の環境に目を向けていく基盤づくりになると考えている。本事業がその礎になれば願い、またその効果を実感できているので、現状に甘えず、さらに登園独自のユニークな木育活動を次年度もどんどん提案していきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。